

## イエスのことば 第43回

「まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまでは、決して死を味わわない人たちがいます。」(マルコ9:1)

## □イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元27年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元30年の春、過越の祭り）、復活、昇天

## □文脈の確認

1. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1年余。
2. 紀元29年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約6か月間において、イエスは、異邦人の地域へ4回、旅行した。異邦人地域への4回の旅行は、**退避（リトリート）と休息の時**であったと同時に、**弟子たちの訓練**を目的とした。
3. 前回と前々回は、リトリート第4回、ピリポ・カイサリアへ行ったときの出来事、ペテロの信仰告白であった。その中で、キリストの弟子として歩もうとするペテロたちに対して、3つの教えがなされた（第41回）。
  - (1) **自分の命を救おうと思う者は、それを失う**・・・**まず、警告**。迫害を避けるためにイエスの弟子として歩むのをやめるなら、殉教の死を受け取ることはないが、近いうちに起きるエルサレム陥落のときに、イエスを拒否したユダヤ人たちといっしょに死ぬことになる。ただし、失うのは身体的いのちであり、信者としての救いを失うことはない。（実際に、エルサレム陥落は、紀元70年）
  - (2) **わたしのためにいのちを失う者は、それを見出だす**・・・**次に、約束**。イエスのために死ぬ者には、いのちを与えるという約束。もちろん、(1)の信者であっても、永遠のいのちを受けていて、体の復活に与かり、メシアの王国に入ることができる。違いは何かと言うと、殉教の死を遂げた信者は、弟子として歩んだことに対する報奨を受け、冠を受けて、メシアの王国に入るのである。よって、ここでの「それを見出だす」とは、単に復活のいのちを受け取るのではなく、復活のいのちを受け、かつ栄冠を受けるということ。
  - (3) **十字架を負う**・・・**3つ目に、代償を覚悟せよ**。十字架を負うとは、ただ命を奪われるだけでなく、そしりを受ける、辱められる、ということ。さらに自分ひとりだけでなく、家族も非難の対象となる。これは、イエスの弟子となる代償を覚悟せよ、との意味。
4. 今回も、ピリポ・カイサリアの地域で起きた、続きの出来事である。

## リトリート第4回ピリポ・カイサリア③ 変貌

□ピリポ・カイサリアにて、弟子についての3つの教えの後、王国に関する教えと変貌

## 1. 啓示の約束 マタ 16:27~28、マコ 8:38~9:1、ルカ 9:26~27

(1) 弟子たちへの注意 マコ 8:38 「このような姦淫と罪の時代（世代）」

(2) イエスの約束

① ルカ 9:27

② マコ 9:1

③ マタ 16:28

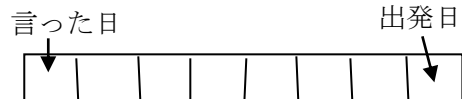
この注意は、あの世代のユダヤ人信者に対する注意。3つの教えの続き

## 2. 変貌 マタ 17:1~8、マコ 9:2~8、ルカ 9:28~36a

(1) 時期 マタ 17:1、マコ 9:2、ルカ 9:28

① 6日のあとで（マタイ・マルコ）

② およそ8日のあとで（ルカ）



(2) 場所・・・「高い山」（マタ 17:1） ピリポ・カイサリアの地域では、ヘルモン山

(3) 出来事の内容

① マタ 17:2

② マコ 9:2~3

③ ルカ 9:29

(4) 約束の成就 ルカ 9:32 ペテロたちは、イエスの栄光を見た

(5) モーセとエリヤの登場

① マタ 17:3~8

② マコ 9:4~8

③ ルカ 9:30~36

(6) モーセとエリヤとの話の内容（ルカ 9:31）・・・イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。

① エルサレムで遂げようとしておられる・・・十字架の死、身代わりの死

② 最期・・・ギリシア語の本来の意味は、「出発」。「出エジプト」の「出」である。奴隷状態にあったイスラエル民族を解放し、自由の民とした出発。

● イエスにとっては・・・、【人となり、自らを制約して、人の肉体の中に神としての栄光を包み込んだ、その状態】からの出発。十字架のあとは、天に戻り、栄光に再び輝くお方となる。

● 信者にとっては・・・イエスの十字架によって、罪の奴隷から解放されて自由となること